



財務データを用いたコスト削減の 見える化

— コスト削減のPDCAを実行するために —

財務部財務課課長補佐 田村 優

PDCAサイクルを回す

- P(計画):コスト削減プロジェクト ⇒ コスト削減方策
- D(実施):コスト削減方策の実施

- C(検証):データの収集と分析、検証
現状を把握する
取組みによるコスト削減効果を見える化
効果が見えるとやる気&自信へ
効果がなければ見切りをつけて次なる方策へ展開

- A(改善):検証結果により更なる改善

P→Dで終わらせないためにCはとても重要な段階
そしてPDCAを繰り返し回していく

スピード



データの収集と分析

1. 会計業務システムによる財務データ
 - ①経費別(勘定科目別)の金額 ⇒ 前月、前四半期、前年度比較
 - ②年間購入量や単価 ⇒ まとめ購入、単価のばらつき等を分析
2. 請求書(毎月)から使用量や基本料金等を把握する
 - ①電気、ガス、水道などのエネルギーコストや通信運搬費を分析
3. 契約書等から契約形態・種別などを把握する
 - ①複写機、光熱水費などの契約方法を分析
4. 市場調査
 - ①他大学の状況調査
 - ②取引業者やライバル業者からの情報
契約の見直し(長期契約等)、新しいプランがないか
5. 現場担当者の意見
 - ①新しい方策と目標値の設定



削減目標の設定

- コスト削減は、削減効果の大きいものから進める
- 数値目標と期限の設定がなければ削減に対してベクトルを合わすことはできない
- データ分析による合理的な削減目標の設定
無理な設定はやる気をそぎ、達成感を味わうことができない
- 取組み効果を数値化し、表、グラフを使って『見える化』する



次なる削減目標を設定(P)し、実行(D)



コスト削減の評価

- 良い取組みをナレッジとして、全学に広げていく
- 削減されたコストを現場でどのように再配分するか
 - ・事業年度終了後に削減額が確定しても再配分できない。
 - ・一定期間(月次、四半期、半期)で検証しながら再配分するしくみをつくる
- コスト削減に対する評価
 - ・削減効果の検証(見える化)とともに、人、グループに対する評価(褒める)制度をつくる

【まとめ】

- PDCAを回すにはC(チェック)が重要
- コスト削減には、データの収集と分析が重要
- 削減目標の設定(P)、検証(C)は数値で『見える化』
- 再配分と評価のしくみをつくる